

能越自動車道関連 埋蔵文化財包蔵地調査報告

加納谷内遺跡隣接地
稲積オオヤチ古墳群
宇波西遺跡

2007年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県西部と石川県能登半島地域の高速交通体系の確立・沿岸地域の活性化を目指し、北陸自動車道小矢部砺波JCTから高岡市、氷見市を経て、石川県輪島市に至る路線として計画されました。

当調査事務所では、この能越自動車道建設に伴い、平成4年度から発掘調査及び遺物整理事業を実施しております。今年度は、氷見ICから灘浦IC間に所在する、大野中遺跡・加納南古墳群・加納谷内遺跡・稲積天坂遺跡・稲積天坂北遺跡・稲積オオヤチ南遺跡の本発掘調査を行いました。

本書は、今年度に行いました、加納谷内遺跡隣接地・稲積オオヤチ古墳群・宇波西遺跡の包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。この結果、各遺跡における埋蔵文化財包蔵地の範囲や、遺存状況を把握することができました。この調査の成果が、今後の遺跡調査や研究等の一助となれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり、格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長 岸本雅敏

例 言

- 1 本書は平成18年度に氷見市加納、稲積、宇波地内の能越自動車道建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の調査報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が国土交通省からの委託を受けて実施した。
- 3 調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査第一課長神保孝造が総括した。調査期間と調査員は次のとおりである。

加納谷内遺跡隣接地

調査期間 平成18年5月16日（実働1日）

調査員 主任 中村亮仁・文化財保護主事 新宅 茜・埋蔵文化財技師 泉 英樹

稲積オオヤチ古墳群

調査期間 平成18年8月28日～9月4日（実働5日）

調査員 チーフ 島田美佐子

宇波西遺跡

調査期間 平成18年10月30日～10月31日（実働2日）

調査員 文化財保護主事 町田賢一・同永井三郎

- 4 発掘調査・本書の作成にあたっては、氷見市教育委員会大野 究氏からご教示を頂いた。記して謝意を表する。
- 5 本書の編集は島田が担当し、執筆は各調査担当者が行った。
- 6 出土遺物及び記録資料は、現在のところ当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目次

I 調査の経緯	1
1 調査の契機	1
2 調査に至るまで	1
II 位置と環境	2
1 位置と地形	2
2 周辺の遺跡	2
III 調査の概要	4
1 加納谷内遺跡隣接地	4
2 稲積オオヤチ古墳群	5
3 宇波西遺跡	11
IV 小括	13
引用参考文献	

挿図目次

第1図 調査地の位置	2
第2図 能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡	3
第3図 加納谷内遺跡隣接地トレンチ位置図	4
第4図 稲積オオヤチ古墳群B 1号墳	6
第5図 稲積オオヤチ古墳群トレンチ位置図	7・8
第6図 稲積オオヤチ古墳群B 2号・B 3号墳	9
第7図 稲積オオヤチ古墳群B 4号・B 5号墳	10
第8図 宇波西遺跡トレンチ位置図	12

表目次

第1表 既往の調査一覧	1
第2表 加納谷内遺跡隣接地トレンチ一覧	4
第3表 稲積オオヤチ古墳群トレンチ一覧	6
第4表 宇波西遺跡トレンチ一覧	11
第5表 平成18年度埋蔵文化財包蔵地調査結果一覧	13

写真図版

図版1 加納谷内遺跡隣接地・稲積オオヤチ古墳群航空写真（1963年・2003年撮影）
図版2 宇波西遺跡航空写真（1963年・2003年撮影）
図版3 加納谷内遺跡隣接地 稲積オオヤチ古墳群
図版4 稲積オオヤチ古墳群
図版5 宇波西遺跡

I 調査の経緯

1 調査の契機

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県西部・能登地域の高速交通体系の確立及び地域活性化のため昭和62年の高規格幹線道路計画の一環として、石川県輪島市から富山県小矢部市に至る延長約100kmの自動車専用道路として計画された。平成2年にこの工事計画を受け、国土交通省（以下、国交省）富山工事事務所・県教育委員会（以下、県教委）・小矢部市教育委員会の三者で埋蔵文化財の取り扱いについての協議が行われた。同年小矢部市教育委員会の協力の下、県教委が主体となり小矢部市域の分布調査を実施、その後小矢部市教育委員会が包蔵地確認調査（以下、確認調査）を実施した。平成3年、国交省・県教委・富山県文化振興財団（以下、財団）の三者協議が行われ、平成4年度以降国交省から委託を受けて当財団が能越自動車道関連の発掘調査を実施している。このうち、能越自動車道関連の調査は、分布調査を県教委、包蔵地確認調査・本調査を当財団または当該市町村教育委員会が主体となって実施している。平成17年度内には氷見ICまでの路線に係る発掘調査はすべて終了している。

2 調査に至るまで（第1表）

平成14年3月、及び平成16年3月、県教委が主体となり一般国道470号七尾氷見道路（能越自動車道氷見IC～県境間）の分布調査が実施され、新たにNEJ-22～30の9箇所の埋蔵文化財包蔵地、2箇所の埋蔵文化財包蔵地推定地が確認され、5箇所の周知の遺跡が再確認された。

平成16年度以降、当財団は七尾氷見道路（氷見IC～県境間）の確認調査に着手した。詳細については第1表のとおりである。平成17年度は、NEJ-26・28等の確認調査を実施したが、「稲積天坂北遺跡」としたNEJ-28は、対象範囲内に一部未買収地があり本調査対象面積を確定することができなかった。また、同年に実施した加納谷内遺跡の本調査の結果から、遺跡範囲が西側の丘陵裾（加納谷内遺跡隣接地）まで広がる可能性があり、確認調査の必要性が認められた。

平成18年度は加納谷内遺跡隣接地、稲積オオヤチ古墳群、宇波西遺跡の確認調査を実施した。

宇波西遺跡は、平成16年度に平野部を対象とした確認調査を実施しているが、丘陵部は未確認であった。今年度急遽伐採の準備が整い確認調査が可能となった。

なお、稲積天坂北遺跡（NEJ-28）については買収の目処が立たず、今年度の当遺跡の本調査の結果から遺跡の広がる可能性は薄いと判断し、稲積天坂北遺跡の本調査対象範囲を確定した。

年度	調査対象地	調査の種類	調査対象面積 (m)	調査面積 (m)	調査期間	調査結果
平成14	氷見IC～灘浦IC	分布調査	約40ha	106,600 (路線内包蔵地)	3/18・19	周知の5遺跡再確認・新規の埋蔵文化財包蔵地6箇所確認
平成15	稲積・宇波・姿～県境	分布調査	約27.5ha	53,500 (路線内包蔵地)	3/22	新規の埋蔵文化財包蔵地3箇所確認・埋蔵文化財包蔵地推定地2箇所確認
平成16	NEJ-22	包蔵地確認調査	1,800	184	5/25・26	大野中遺跡とする
	NEJ-23	包蔵地確認調査	12,470	630	5/27～6/1・12/9・10	七分一堂口遺跡とする
	NEJ-24	包蔵地確認調査	25,700	1,496	5/25～6/4	加納谷内遺跡とする
	NEJ-25	包蔵地確認調査	9,800	630	12/6～12/9	稲積天坂遺跡とする
	NEJ-27	包蔵地確認調査	18,600	864	11/29～12/8	宇波西遺跡に統合
	NEJ-29	包蔵地確認調査	13,000	675	11/29～12/3	遺構・遺物なし
平成17	大野中遺跡	本調査		1,064	5/12～7/19	
	七分一堂口遺跡	本調査		2,608	5/12～10/3	
	加納谷内遺跡	本調査		17,898(延べ25,953)	5/16～12/21	
	大野中隣接地	包蔵地確認調査	7,012	120	10/25・26	大野中遺跡の本調査範囲を確定
	稲積天坂隣接地	包蔵地確認調査	653	48	10/24	稲積天坂遺跡の本調査範囲を確定
	NEJ-26	包蔵地確認調査	5,921	256	5/30～6/1・10/17	稲積オオヤチ南遺跡とする
NEJ-28	包蔵地確認調査	22,805	1,032	5/30～6/1・10/18～21	稲積天坂北遺跡とする	
平成18	大野中遺跡	本調査		3,018	5/24～10/2	
	加納南古墳群	本調査		8,241	6/12～12/15	
	加納谷内遺跡	本調査		4,813(延べ9,422)	5/17～11/28	
	稲積天坂遺跡	本調査		5,650	6/19～9/27	
	稲積天坂北遺跡	本調査		10,908(延べ14,837)	5/15～11/13	
	稲積オオヤチ南遺跡	本調査		972	9/25～10/25	

第1表 既往の調査一覧

Ⅱ 位置と環境

1 位置と地形 (第1図)

富山県氷見市は、能登半島の根元にあり、県の北西部に位置する。三方を石動丘陵・宝達丘陵・二上山丘陵に囲まれ、東は富山湾に面している。市域の約8割を占める丘陵部分には新第三期と第四期層の泥岩が広く分布し、地滑り地形が多く認められる。市北部は仏生寺川・上庄川・余川川・阿尾川・宇波川などの河川とその支流によって開析された沖積平野が形成されている。一方、市南部はかつて「布施の水海」と呼ばれた潟湖が川の堆積物によって埋められて作られた沖積平野とその砂嘴として発達した砂丘からなっている。今回対象となった3遺跡は市北部に位置し、加納谷内遺跡は上庄川左岸の入り組んだ丘陵部に挟まれた狭隘な平野部、稲積オオヤチ古墳群は余川川下流域左岸の丘陵先端部に、宇波西遺跡は宇波川中流域左岸の丘陵台地上にある。



第1図 調査地の位置

今回対象となった3遺跡は市北部に位置し、加納谷内遺跡は上庄川左岸の入り組んだ丘陵部に挟まれた狭隘な平野部、稲積オオヤチ古墳群は余川川下流域左岸の丘陵先端部に、宇波西遺跡は宇波川中流域左岸の丘陵台地上にある。

2 周辺の遺跡 (第2図)

加納谷内遺跡が立地する上庄川中流域は、比較的安定した平野が開け、古墳時代には丘陵上に継続して古墳群が築かれ開発が進められた地域である。当遺跡は加納蛭子山古墳群・加納新池古墳群・加納南古墳群に囲まれる位置にある。遺跡北側の加納蛭子山古墳の所在する「蛭子山」はその中腹に「加納横穴墓」が築かれており、古墳時代初頭から連綿と墓域として利用された山のようなものである。

稲積オオヤチ古墳群の位置する余川川流域も古墳時代には下流域左岸を中心に丘陵部分に継続して古墳が築かれた地域である。海側から「阿尾島田古墳群」・「稲積オオヤチ古墳群」・「稲積ウシロ古墳群」・「稲積城ヶ峰古墳群」・「余川金谷古墳群」・「余川田地古墳群」がある。稲積オオヤチ古墳群の小谷を挟んで東側に位置する阿尾島田古墳群は13基以上の古墳から成り、最大規模のA1号墳は古墳時代前期の前方後円墳である。また、谷部を挟んで西側の対岸の尾根には10基の方墳が直線上に並ぶ稲積ウシロ古墳群があり、その形態から古墳時代初頭と推定されている。

宇波西遺跡が立地する宇波川流域は丘陵部が海岸部にせり出し、帯状の細長い平野部が流域に沿って形成される。周辺には宇波川の河口付近と両側の丘陵部分に遺跡が存在する。縄文時代は海岸部の平野部や洞窟が利用され、古墳時代には宇波川流域を中心として開発が進み、海岸部には横穴墓群・丘陵部には古墳群が形成される。河口付近には「宇波古墳群」・「脇方十三塚古墳群」・「脇方西古墳群」・「脇方横穴墓群」がある。宇波古墳群の1号墳は石室をもち、人骨・須恵器・鉄刀が出土しており、築造時期は6世紀後半とされている。「脇方横穴墓群」は宇波川左岸の海に臨む丘陵中腹にあり、8基の横穴墓が確認されている。7世紀後半頃のもので、宇波古墳群に次ぐ有力者の墓地と推定されている。宇波川中流域左岸には「宇波安居寺古墳群」・「熊野神社古墳群」がある。宇波安居寺古墳群は安居寺山から延びる丘陵端部に築かれた3基の円墳から成り、時期は5世紀初頭から中頃と推定されている。この丘陵は「安居寺屋敷」と呼ばれ、石動山への主要分岐路を見下ろす地点として、宇波城と一連の城館として中世にも利用されている。古代には一帯は「和名抄」に見える宇納郷に比定される地区でもあるが、関連する遺跡は未だ見つかっていない。



第2図 能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡 (1:50,000)

Ⅲ 調査の概要

1 加納谷内遺跡隣接地

(1) 調査対象地 (図版1)

調査対象地は氷見市加納地内に所在する。宝達丘陵から派生した丘陵間の沖積平野に位置し、北は加納谷内遺跡に接し、南は加納南古墳群が位置する丘陵裾に接している。

現況は宅地跡で、標高は5.9m～6mを測る。

(2) 調査の方法

幅1.6mのトレンチ (以下、Tと略す) を2箇所設定し、重機 (バックホウ) や人力により、表土から遺構確認面または地山と推定されるところまで掘り下げ、遺構及び遺物の遺存状況を確認した。

調査対象面積は1,100m²、調査面積は60.8m²である。

(3) 基本層序

I 層	客土	20cm～1 m	黒褐色砂質土
II 層		20cm～50cm	褐灰色砂質土
III 層	地山		灰色砂

トレンチ番号	全長 (m)	掘削深度 (m)	I 層	II 層	III 層	遺構
T 1	23	0.8	—	—	—	
T 2	15	0.8	—	—	—	土坑状の落ち込み

第2表 加納谷内遺跡隣接地トレンチ一覧

(4) 調査の状況 (第3図、第2表、図版3)

T 1 は I 層が南端で20cm、北端で1 m堆積する。この I 層は近現代陶磁器やビニールなどが多量に混じる。II 層は20cm～30cm堆積する。III 層は地山となる。隣接する加納谷内遺跡の遺構検出面の標高からみると、T 1 は激しく削平されている。

T 2 は I 層が50cm堆積する。この層には伐採による枝・木根などが多量に混じる。II 層は南端で50cm、北端で20cm堆積し、炭化物が少量混じる。III 層上面で性格不明の土坑状の落ち込みを検出したが、いずれも10cm前後と浅く、削平されているといえる。

(5) 出土遺物

なし。

(6) 調査の結果

性格不明の土坑状の落ち込みを確認したが、深度が浅く、上面は削平されていると考えられる。また、遺物が出土していないことを考え合わせると、南側への遺跡の広がりはないと考える。



第3図 加納谷内遺跡隣接地トレンチ位置図(1:1,000)

2 稲積オオヤチ古墳群

(1) 調査対象地 (図版1)

稲積オオヤチ古墳群は氷見市稲積地内、余川川下流域の左岸、鏡山から南へ続く丘陵上にある。『氷見市史』によれば、2支群合わせて17基以上の古墳群で、南西側丘陵に分布するB支群は、4基の円墳と1基の方墳で構成される。このB支群すべてが調査対象地に含まれている。また、尾根状には中世の山城関係の遺構として2箇所掘切が報告されている。

現況は山林で、標高は約22m～54mである。

(2) 調査の方法

幅1mのトレンチ(以下、Tと略す)を17箇所設定し、人力により、表土から遺構確認面または地山と推定されるまで掘り下げ、遺構及び遺物の遺存状況を確認した。今回の調査では各古墳の墳丘形状の確認や古墳以外の遺構の有無に重点を置き、調査対象範囲を絞り込むことを目的とした。従ってトレンチの掘削は全体にわたって表土を除去するに止めている。

調査対象面積は19,800m²、調査面積は417m²である。

(3) 基本層序

I 層	表土	10cm～50cm	腐植土
II 層	地山または墳丘盛土		明黄褐色シルトまたは黄褐色シルト

(4) 調査の状況 (第4～7図、第3表、図版3・4)

T1～T3はB5号墳・B4号墳にわたり「キ」の字状に設定したものである。この2基の古墳は連結しており、連結部と平坦なB5号墳の墳頂部との高低差はあまりない。後世の削平を受けている可能性もあるが、合わせて1基となる可能性もありえよう。T1のB5号墳墳頂部東端からは、平瓶の口縁部と推定する須恵器が出土している。T4・T5からはB3号墳は直径約16mの円墳と推定される。T7・T8からは、B2号墳は南北にやや長い直径約22mの円墳と推定される。T7では南北の墳丘裾部で幅約1m～3mにわたってやや暗い黄褐色シルトの堆積が認められた。周溝の可能性が考えられる。T15・T16からはB1号墳は東側への広がりがかみにくい、辺14mの方墳と推定され、北側は大きく削平され、裾部はその土で盛土され、低い段を形成している。

また、T4ではB4号墳の北東裾部を削平する幅約2mの断面「V」字形の溝を確認した。T6においては尾根の一部が両側から抉られて狭くなり、土橋のような状況になっていた。これらは、『氷見市史』で報告されている堀切(空堀)と判断した。T11は尾根が急激に低くなる先端に設定したものであるが、人為的に削平したと推定する2段の平坦面を確認した。

(5) 出土遺物

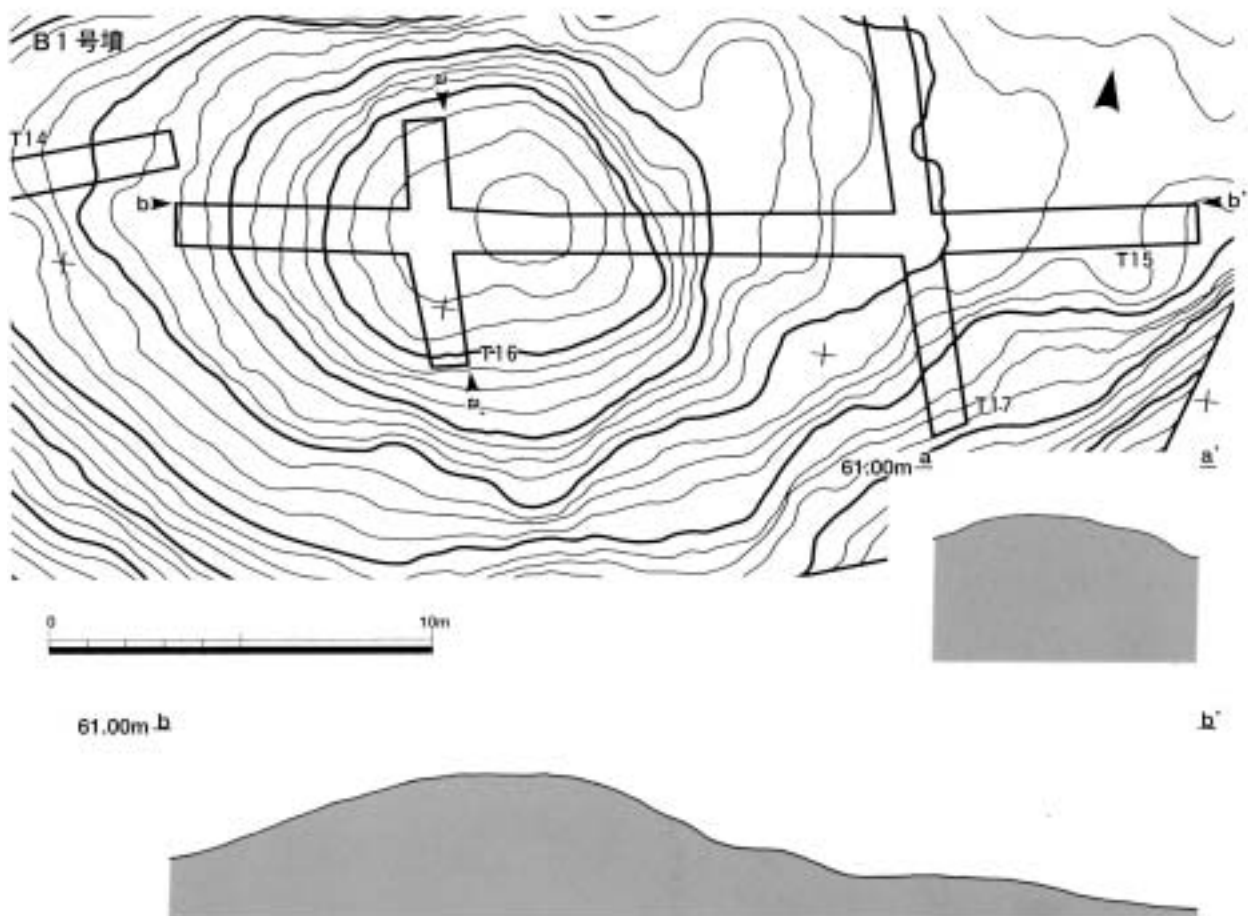
T1から6世紀末頃と推定する須恵器の平瓶の同一個体の口縁部片が2片出土している。

(6) 調査の結果

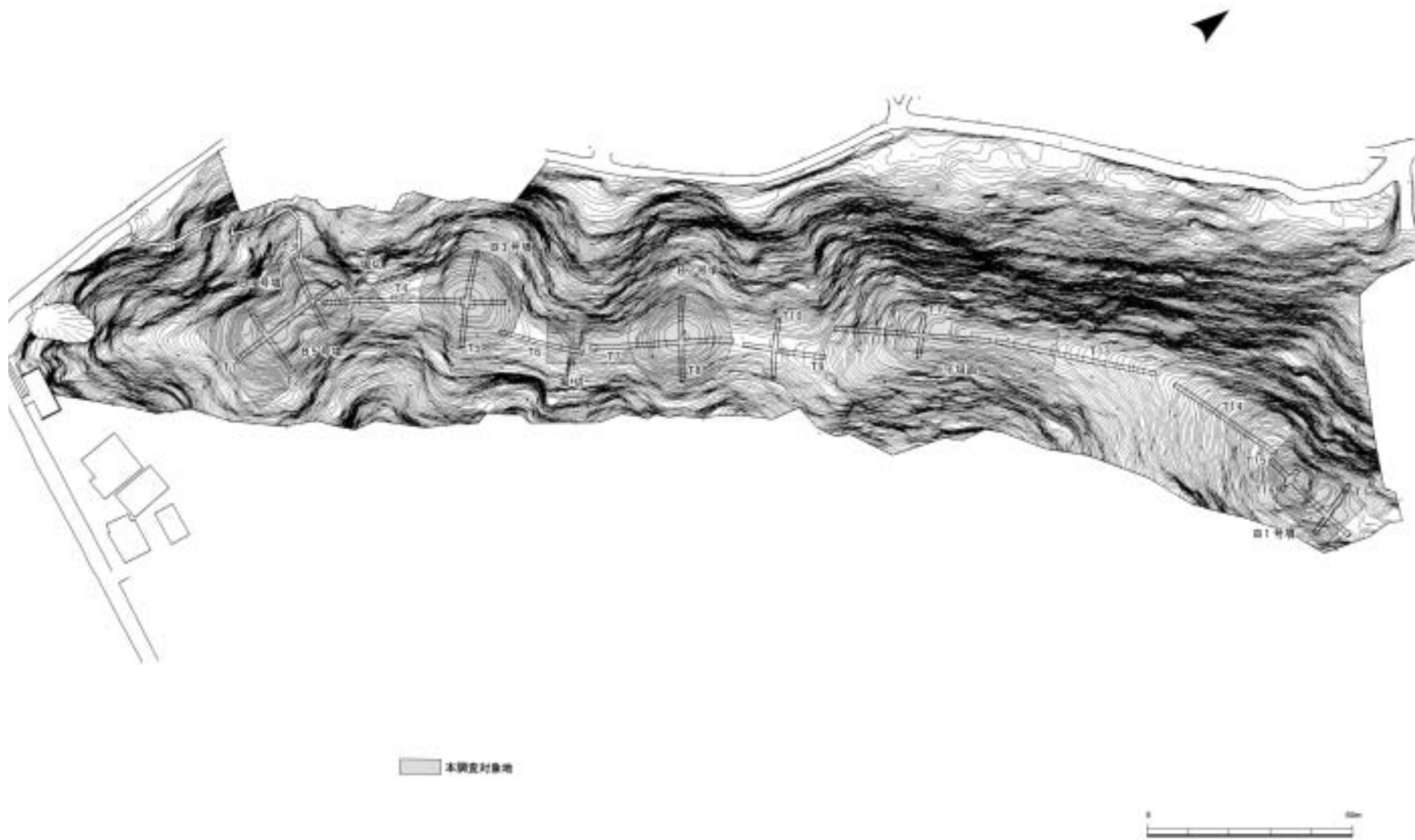
今回の調査の結果によって、『氷見市史』に記載されているB古墳群の規模や形状、及び中世以降の山城関係の遺構を再確認することができた。新たに山城関係と考えられる平坦面を加え、尾根上に連なる5基の古墳、及び中世の山城関係の遺構(堀切・平坦面)の周辺が本調査の対象となると判断される。本調査の対象面積は合わせて約3,000m²である。

トレンチ番号	全長(m)	遺構	遺物	備考	本調査対象面積
T 1	30		須恵器	B 5号墳・B 4号墳	B 5号墳・B 4号墳
T 2	17		—	B 5号墳	堀切
T 3	20		—	B 4号墳	約1,000㎡
T 4	44	堀切	—	B 3号墳	B 3号墳
T 5	25		—	B 3号墳	約500㎡
T 6	20	堀切(土橋)	—		B 2号墳・堀切
T 7	35	周溝?	—	B 2号墳	約700㎡
T 8	22		—	B 2号墳	
T 9	20		—		
T 10	15		—		
T 11	40	平坦面	—		平坦面
T 12	10	平坦面	—		400㎡
T 13	40		—		
T 14	30		—		
T 15	27		—	B 1号墳	B 1号墳
T 16	7		—	B 1号墳	400㎡
T 17	15		—		

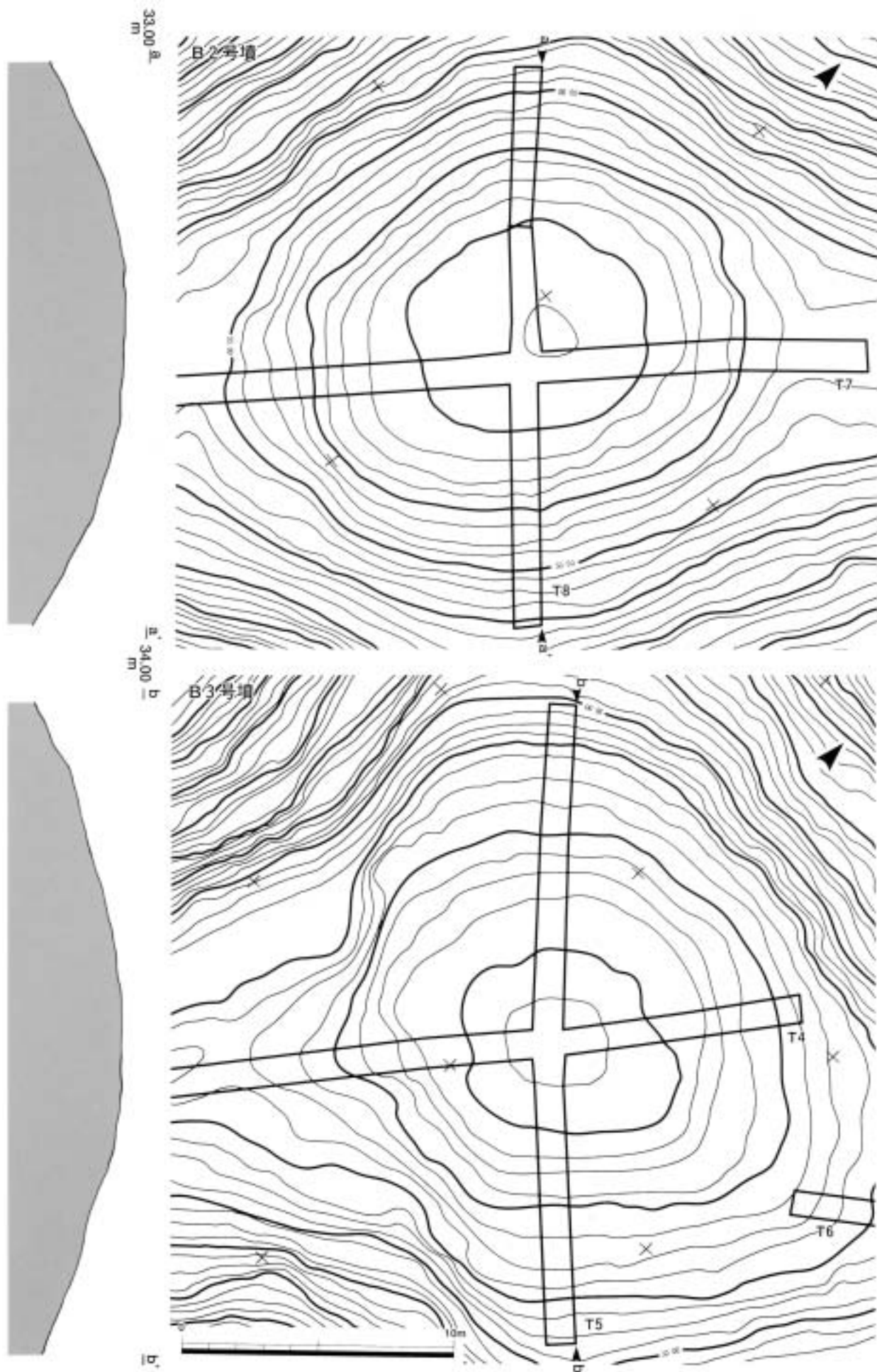
第3表 稲積オオヤチ古墳群トレンチ一覧



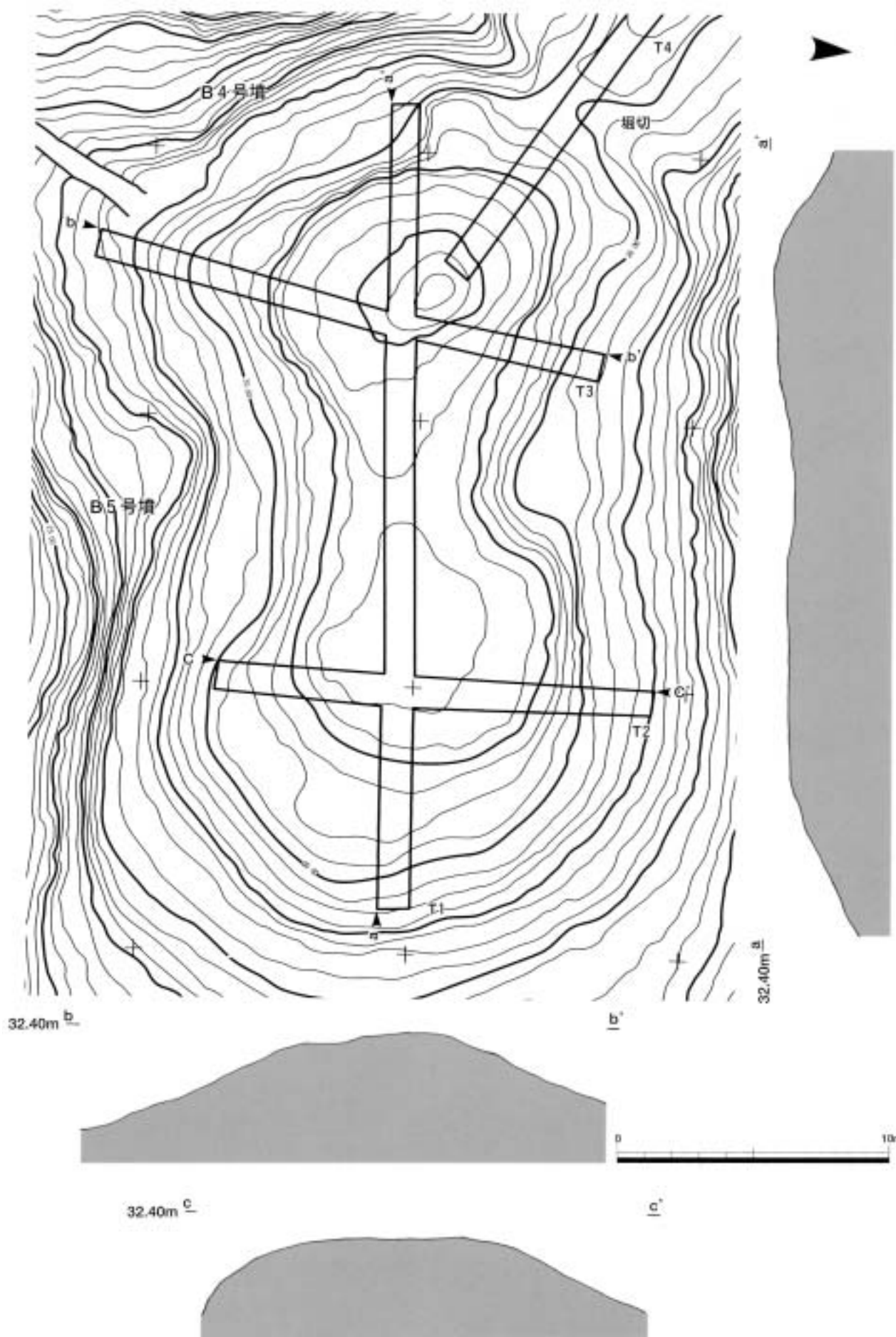
第4図 稲積オオヤチ古墳群B 1号墳 (1:200)



第5図 稲積オオヤチ古墳群トレンチ位置図 (1:1,000)



第6図 稻積オオヤチ古墳群B 2号・B 3号墳 (1:200)



第7図 稻積オオヤチ古墳群B4号・B5号墳 (1:200)

3 宇波西遺跡

(1) 調査対象地 (図版2)

宇波西遺跡は氷見市宇波地内、宇波川中流域左岸の標高24mの丘陵上に立地し、調査対象地はその先端部に位置する。現況は山林・畑である。

(2) 調査の方法

幅1mのトレンチ(以下、Tと略す)を2箇所設定し、重機(バックホウ)や人力により、表土から遺構確認面または地山と推定されるところまで掘り下げ、遺構及び遺物の遺存状況を確認した。

調査対象面積は1,000m²、調査面積は123m²である。

(3) 基本層序

I 層	腐植土	10cm~50cm	
II 層	遺構確認面・地山		にぶい黄褐色シルト

(4) 調査の状況 (第8図、第4表、図版5)

T1~T3は畑地跡、T4~T8は山林にトレンチを設定したが、いずれも地山面まで削平されており、遺物包含層は遺存していなかった。T3では、西端で土坑4基を確認したが、遺物は土師器小片のみの出土であった。T4では、I層より土師器小片が出土した。この他のトレンチからは、遺構・遺物ともに発見できなかった。

(5) 出土遺物

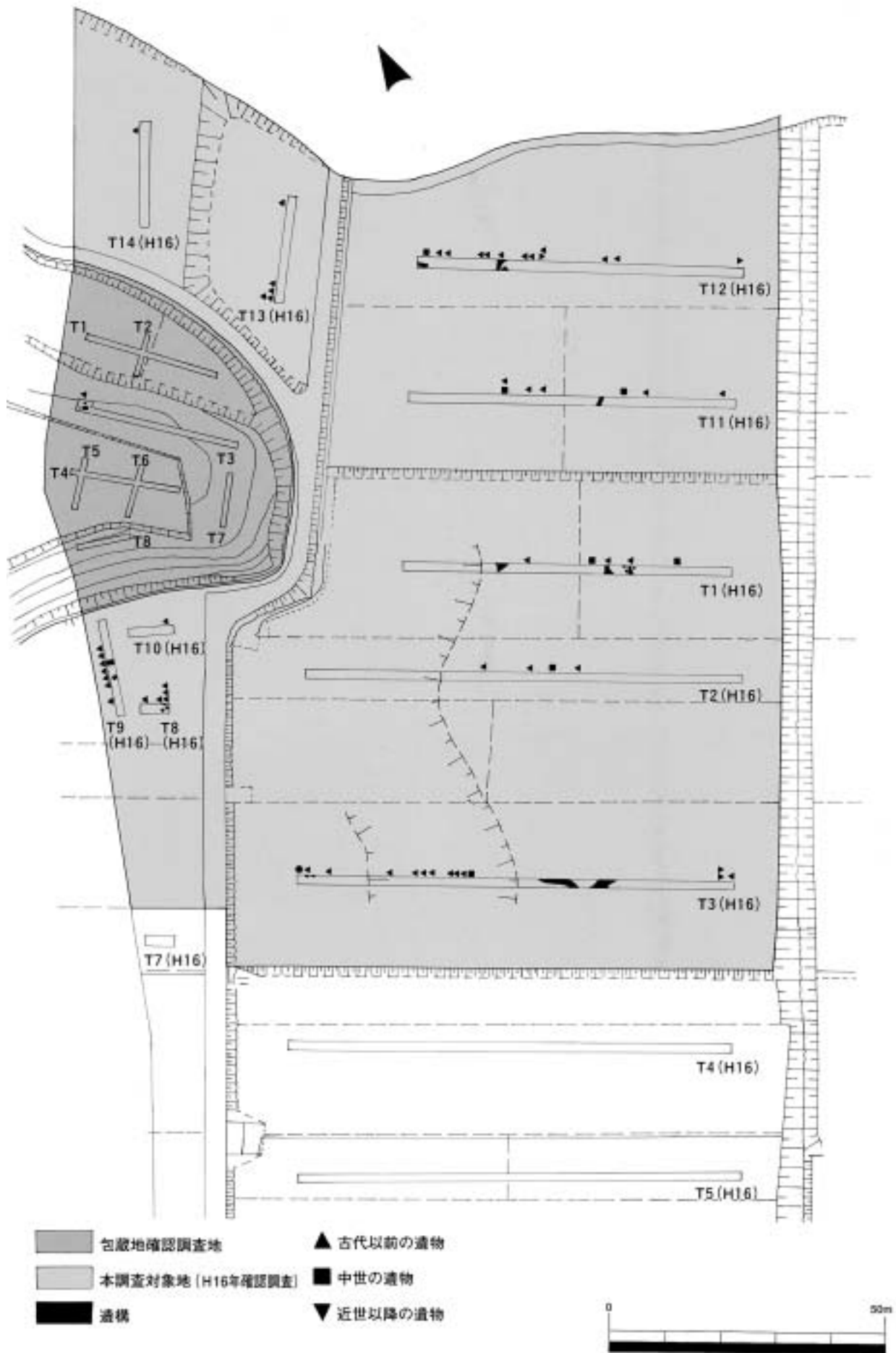
T3の土坑から土師器の甕の口縁部小片が1点、T4から土師器の底部片と考えられる小片が1点出土しているが、詳細な時期は不明である。

(6) 調査の結果

今回の調査では、すべてのトレンチにおいて地山面まで削平を受けていることが認められた。遺構もT3での西端で土坑を検出したのみであることから、調査対象地内へは遺跡の広がり認められないと判断される。

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	I層	遺構内	遺構
T1	25	0.2	—	—	
T2	8	0.2	—	—	
T3	30	0.2	—	土師器	土坑4基
T4	20	0.2	土師器	—	
T5	10	0.1	—	—	
T6	10	0.2	—	—	
T7	10	0.3	—	—	
T8	10	0.5	—	—	

第4表 宇波西遺跡トレンチ一覧



第8図 宇波西遺跡トレンチ位置図 (1:1,000)

IV 小 結

平成18年度、能越自動車道関連で実施した埋蔵文化財包蔵地調査の結果は以下のとおりである。

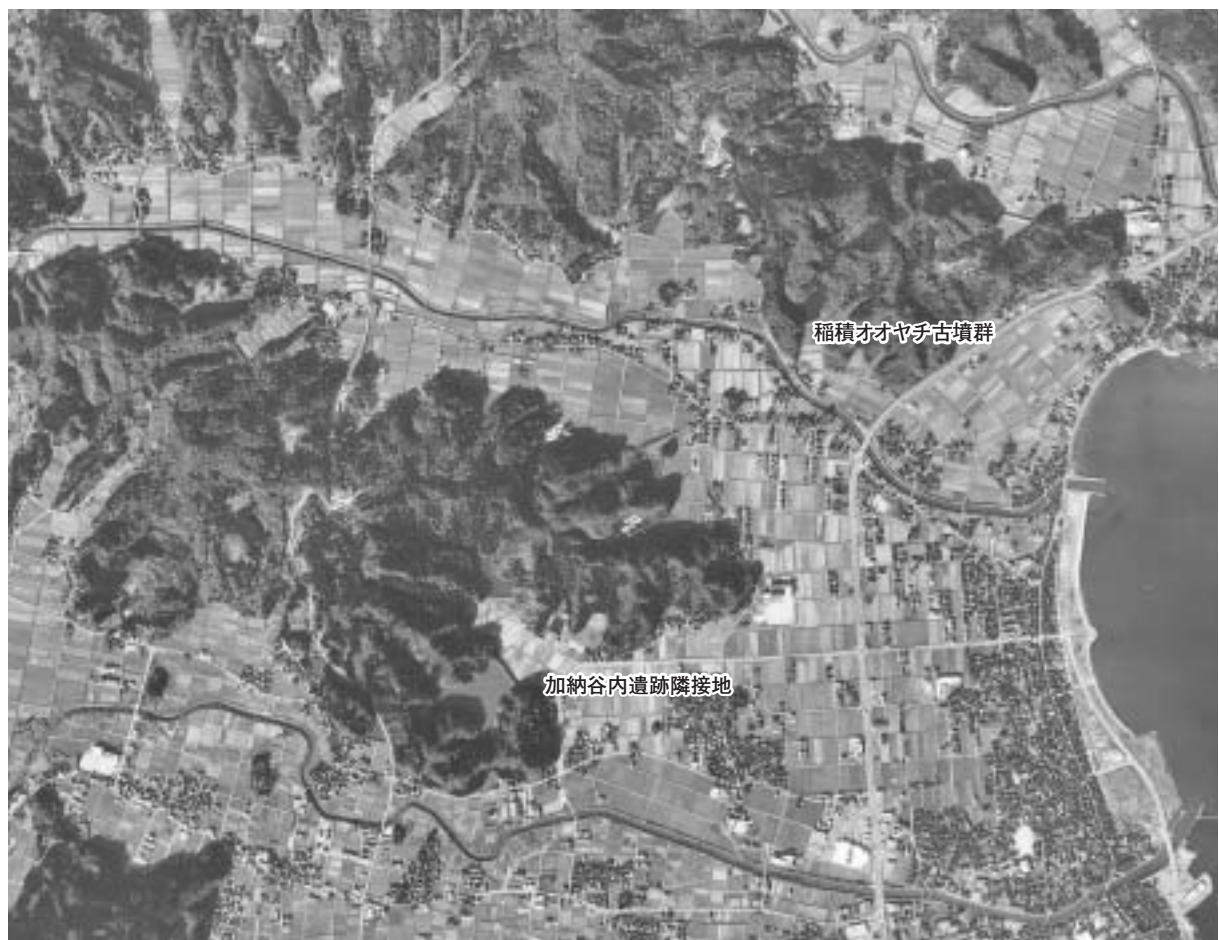
- 1, 加納谷内遺跡隣接地では、遺跡の広がりには認められなかった。加納谷内遺跡の本調査は今年度をもって終了した。
- 2, 稲積オオヤチ古墳群では、既に『氷見市史』で報告されている5基の古墳、及び中世山城関係の遺構を再度確認し、山城関係と考える平坦面を新たに確認した。本調査対象範囲はこれらの遺構の周辺合わせて約3,000m²となる。
- 3, 宇波西遺跡は確認調査が未調査であった丘陵部分の調査を行ったが、上面は削平を受けており、遺跡の広がりには認められなかった。従って、路線内における宇波西遺跡の本調査対象面積は、平成16年度実施済みの確認調査結果の約15,930m²となるが、当該報告書刊行後再度対象面積を測定した結果、約16,600m²と改訂することとなった。

包蔵地名	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	遺跡の 有無	本調査対象 面積 (m ²)	主な遺構	主な遺物
加納谷内遺跡隣接地	1,100	60.8	無	—	落ち込み	無
稲積オオヤチ古墳群	19,800	417	有	3,000	古墳・堀切他	須恵器
宇波西遺跡	1,000	123	無	—	土坑 4	土師器
合計	21,900	600.8		3,000		

第5表 平成18年度埋蔵文化財包蔵地調査結果一覧

引用・参考文献

- 国土地理院 1988 『1:50,000 地形図 氷見』
- 国土地理院 1988 『1:50,000 地形図 虻ガ島』
- 財団法人富山県文化振興財団 2005 『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 中尾埋蔵文化財包蔵推定地 NEJ-22 NEJ-23 NEJ-24 NEJ-25 NEJ-27 NEJ-29』
- 財団法人富山県文化振興財団 2006 『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 大野中遺跡隣接地 稲積天坂遺跡隣接地 NEJ-26 NEJ-28』
- 財団法人富山県文化振興財団 2006 『平成17年度 埋蔵文化財年報』
- 氷見市史編さん委員会 2002 『氷見市史 7 資料編五 考古』



図版1 加納谷内遺跡隣接地・稲積オオヤチ古墳群航空写真（1963年・2003年撮影）



図版2 宇波西遺跡航空写真（1963年・2003年撮影）



図版3 加納谷内遺跡隣接地 1. T1全景 2. T1土層 3. T2全景 4. T2土層
 稲積才オヤチ古墳群 5. B1号墳 6. 平坦面 7. B2・B3号墳 8. B4・B5号墳



図版4 稲積才オヤチ古墳群 1. B1号墳墳頂部 2. B2号墳墳頂部 3. B3号墳墳丘裾部 4. B5号墳墳丘裾部 5. 堀切
6. 堀切(土橋) 7. 平坦面 8. 平坦面裾



1



2



3



4



5



6



7



8

図版5 宇波西遺跡 1. 遠景 2. T1全景 3. T1土層 4. T2全景 5. T8全景 6. T8土層 7. T3SK1~3 8. 作業風景

報告書抄録

ふりがな	のうえつじどうしゃどうかんれんまいぞうぶんかざいほうぞうちょうさほうこく かのうやちいせきりんせつち いなづみおおやちこふんぐん うなみにしいせき							
書名	能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 加納谷内遺跡隣接地 稲積オオヤチ古墳群 宇波西遺跡							
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	島田美佐子・新宅 茜・町田賢一							
編集機関	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229							
発行年月日	西暦2007年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
かのうやちいせき 加納谷内遺跡 りんせつち 隣接地	ひみし 氷見市 かのう 加納	16205	364	36° 52′ 11″	136° 57′ 45″	20060516	60.8㎡ 対象 1,000㎡	能越自動車道 建設
いなづみ 稲積オオヤチ こふんぐん 古墳群	ひみし 氷見市 いなづみ 稲積	16205	303	36° 51′ 50″	136° 58′ 30″	20060828 ～ 20060904	417㎡ 対象 19,800㎡	能越自動車道 建設
うなみにしいせき 宇波西遺跡	ひみし 氷見市 うなみ 宇波	16205	376	36° 55′ 11″	137° 0′ 18″	20061030 ～ 20061031	123㎡ 対象 1,000㎡	能越自動車道 建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
加納谷内遺跡 隣接地	-	-	落ち込み	-	遺跡の広がりには認められなかった
稲積オオヤチ 古墳群	古墳 中世山城	古墳 中世	古墳 堀切	須恵器	5基の古墳 山城関係の遺構3箇所
宇波西遺跡	-	-	土坑	土師器	遺跡の広がりには認められなかった

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第36集
能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告

加納谷内隣接地 稲積オオヤチ古墳群 宇波西遺跡

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

発行日 2007（平成19）年3月30日

印刷 前田印刷株式会社